

感染症の予防のための情報提供について

病 名	腸管出血性大腸菌感染症（O157）				
年齢及び性別	33才・男性		職 業	会社員	
住 所	松阪市				
発 病 年 月 日	平成31年 4月29日				
診 断 年 月 日	令和 元年 5月 4日				
（患者発生の経過）					
4月29日 腹部に違和感がみられた。					
4月30日 腹痛、吐気の症状がみられたため、松阪市内の診療所を受診し、同市内の病院へ紹介受診後、入院となった。					
5月 1日 腹痛継続し、出血を伴う下痢症状がみられた。					
5月 4日 4月30日の便検査から、腸管出血性大腸菌感染症と診断された。					
5月 7日 患者に症状はありません。					
【防疫措置】 接触者の健康状況調査及び検便の実施（松阪保健所）					
【県内での腸管出血性大腸菌感染症の発生状況】（四日市市保健所分を含む）					
	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
患者	27	29	29	32	5
保菌者	10	15	13	19	5
計(感染者)	37	44	42	51	10
※2019年1月1日～2019年5月7日現在まで本件含む					
2019年内 患 者：O157（3人）O26（1人）O111（1人）					
保菌者：O26（5人）					
【自分でできる対策】					
1 予防の3原則					
① 加熱（菌を殺す）					
この菌は熱に弱く、75℃、1分の加熱で死滅します。					
肉の生食は避けて下さい。特に子どもや高齢者は注意して下さい。					
ひき肉は、十分に加熱をしましょう。					
焼き肉を食べる時は、生肉を取る箸と食べる箸を使い分け、よく焼きましょう。					
井戸水は、煮沸してから飲んで下さい。					
② 迅速・冷却（菌を増やさない）					
調理した食品はすぐに食べましょう。					
冷蔵や冷凍の必要な食品は、持ち帰ったらすぐに冷蔵庫（10℃以下）や冷凍庫（-15℃以下）に入れましょう。					
③ 清潔（菌をつけない）					
手指や調理器具は十分に洗いましょう。					
2 暴飲暴食を避け、睡眠を十分にとるなど体力・体調を保って下さい。					
3 腹痛・下痢等の症状がでた場合、すぐに医師の診察を受けて下さい。					